

## 熊本県立菊池農業高等学校 平成29年度学校評価表

### 1 学校教育目標

『生徒が輝き、地域をきらめかせる菊農教育の実践』

「熊本の心」を基本理念とし、夢への架け橋教育プラン、県立学校における児童生徒教育指導の重点、人権教育取組、体育保健課取組、特別支援教育の方向を指針とし、本校の校訓・綱領「向学創造の精神を培う」「敬愛協同の美德を養う」「勤労剛健の気風を興す」の具現化に取組み、豊かな人間性と社会を生き抜く力を育て、活気に満ち溢れた学校創りを目指す。

#### (1) 目指す生徒象

- ・【 自他を認め合い協同する生徒 】
- ・【 あいさつをする生徒 】
- ・【 夢の実現に向け努力する生徒 】

『挨拶・服装など基本的な生活習慣を身に付け、目標の実現に周囲と協同して取組み、自分の意見や思いをしっかりと伝えることができ、何事にも一生懸命に努力することのできる菊農生！！』

#### (2) キャッチフレーズ

『菊農には夢やときめきがある！ ～君の夢を見つけ実現しよう！～』

### 2 本年度の重点目標

#### (1) 基礎学力向上

- ア 生徒一人ひとりを理解し、授業の工夫・改善と個別指導を徹底（授業のUD化）
- イ 図書館の活用と読書指導の推進による、読む力、表現する力の育成
- ウ 学力向上のための学習支援の実践（授業を工夫し学び直しへの取組）
- エ 教師と生徒が一体となった授業（公開授業の実施、グループ学習等の導入）
- オ 教育の情報化と校務のスリム化による指導時間の確保と徹底

#### (2) 健全な心と身体を育む生徒指導

- ア 生活指導を充実させ、基本的な生活習慣を確立することで、生徒の健康・安全教育の推進を図る。
- イ 教育相談体制を充実させ、生徒の心のケアと安心して学校生活を送れる体制づくりに努める。
- ウ 部活動を推進し、生徒の心と身体の鍛錬と活気溢れる学校生活を実現する。
- エ 農業学習、環境保全活動をとおして自然を大切にすることの育成に努める。

(3) 夢の実現

- ア 寮教育をとおして共同する精神を育み、グローバルな視点で物事をとらえ、社会の形成者としての資質を磨き、様々な課題に周囲と協同して取組み解決することのできる生徒の育成に努める。
- イ 専門教育をとおして経営感覚を磨き、地方創生を意識した地域活性化に寄与する人材の育成を図る。
- ウ キャリア教育の視点に立った系統的な体験学習を通して、進学・就職へ意識を高め、諦めずに努力する生徒の育成に努める。
- エ 学校農業クラブ活動、部活動、ボランティア活動等に積極的に取組み、地域との連携強化を図り、地域の活性化と魅力ある学校づくりに努める。
- オ 教職員も資質向上のため、絶えまぬ研鑽に努める。(小中学校の公開授業参加)

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目指す生徒像実現のために学校目標の周知を図るとともに、教育活動の着実な実践による活性化を図る。	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■全職員が共通認識として実践する。</li> <li>■保護者、生徒全員に学校目標を認知させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■職員会議、研修等で常時啓発する。</li> <li>■学校HP、生徒総会、育友会総会、育友会広報誌等を通じて啓発を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■教育目標、重点目標の周知を育友会総会、ホームページの活用等で啓発に取組んだが、生徒・保護者の認知度は昨年度と変わらなかった。職員は、学校の教育目標に沿って各自の具体的な目標を立てることにより意識が高まった。日頃の学習活動、学校行事等をとおして、生徒・保護者への認知度を上げることが課題である。</li> </ul>
		自信に満ちた行動力を発揮し、社会で生き抜く力を持った生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基本的な生活習慣を身に付け、夢の実現に向かって、果敢に挑戦する生徒を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基礎学力の向上を図る。</li> <li>■朝学習の定着を図る。</li> <li>■農業の専門性を高める教育の推進を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基礎学力向上の取組として各学年での朝学習、考査前学習会等を実施。授業ではアクティブラーニングの導入など工夫した取組を実施。</li> <li>■現場実習、学科研修、学習成果発表など、専門性を高める教育に取組むことで、課題解決能力を育み進路選択につなげることができた。</li> </ul>
	校長を中心とした指導体制のもと学校目標を実現する。	学校目標実現に向けた職員の意思統一と組織の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■職員研修の充実と各部の連携推進及び学科間の協力体制を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生徒理解に係る職員研修を充実させる(毎学期実施)。</li> <li>■学科・学年主任、各部主事等の融合を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>■支援を要する生徒や課題を抱える生徒が増加する中、早期に複数回の職員研修、定期的な委員会の開催により生徒情報の共有ができ、継続支援ができた。巡回指導員による研修で、職員の意思統一が図られ、理解を深めることができた。</li> <li>■学科主任と主任主事を含めた個別のケース会議等を実施したことで、情報の共有化と対応について連携して取組むことができた。</li> </ul>
		災害時及び生徒の健康管理等における危機管理体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■緊急時の指示系統や連絡体制、地域と連携した防災マニュアルの検討、改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■保護者連絡システム、ホームページ活用等による連絡体制の強化、防災型学校運営協議会等で検討し改善を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■携帯メール「安全・安心メール」システムを活用し、緊急の連絡や行事連絡など大きな効果が見られた。また、地域や行政機関と連携した防災型学校運営協議会を発足し、危機管理体制の見直しをすることができた。</li> </ul>

		学校情報を分かりやすい内容で定期的に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ホームページ掲載情報をタイムリーに更新する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ホームページのシステムを職員に周知し、各行事等の情報発信を学科毎に更新する。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学校行事、各学科の特色ある学習の様子、進路情報の発信ができた。但し、タイムリーに更新できていない部署もあり、生徒募集の観点からも情報発信の意識をさらに高める必要がある。</li> </ul>
学力向上	生徒一人ひとりを理解し、授業の工夫・改善と個別指導の徹底(授業のUD化)	生徒の学習意欲を高め、もっと知りたくなる授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生徒が楽しく登校し「わかる・できる・もっと知りたくなる」を実感する授業を展開する。</li> <li>■授業のUD化に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生徒による授業評価を実施する。</li> <li>■教育環境の工夫、ルールの明確化、視覚的支援の充実を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■各教科で授業のUD化を意識した研究授業を行い、生徒の授業評価を実施した。</li> <li>■通級指導の導入に合わせ、授業のUD化は必要であり、掲示教育や農場の整備を進め、認証制度の取得と併せた展開を図る必要がある。継続して職員研修等を実施する。</li> </ul>
		習熟度合わせた授業を展開し、わかる喜びを感じる授業を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■習熟度別に授業内容を組立て、「基礎学力」を身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■欠点保持者及び希望する生徒等に対し、考査前学習会等で学びなおしを実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■数学・英語については習熟度別学習を取り入れ、学びなおしに念頭におき授業を展開した。基礎学力の低い生徒も多く、各教科においてわかる授業、興味関心を高める授業展開が課題である。</li> </ul>
	教師と生徒が一体となった授業(公開授業の実施、グループ学習の導入)	生徒の興味関心を引き付ける授業の展開を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学科・教科別に研究授業(アクティブラーニングを重視した授業展開)による資質向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■研究授業週間を設け、統一したテーマを元に、各学科、教科ごとに研究授業を実施し授業改善に生かす。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■教育センターより授業のUD化について講師を招き研修を実施。その後授業のUD化をテーマに各教科で研究授業を実施。考えさせ、気づきを発表させる授業に取り組む教師も増えてきた。来年度、さらに授業研究に力を入れ実施していきたい。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>■授業の公開による教師の授業力及び探究心の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■教員相互の授業見学と授業評価を実施する。</li> <li>■オープンスクール等を行い、見学者等に率直な意見を求め、授業改善に生かす。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■オープンスクールの際、教員も自由に授業を見学し授業に対する意見や生徒に関する意見交換も行うことが出来た。オープンスクールを2回実施したが、見学者からの意見が少なかった。また、地域の中学校や教育関係者からの見学者が少なかったため、次年度は増やす工夫が必要である。</li> </ul>
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育推進のため、進路指導力の向上に取り組む。	農業自営者育成を主としたキャリア教育を学年に応じて実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■寮教育、先進農家視察、現場実習等を通して職業意識の高揚を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■教育入寮、研修入寮、農業実習等による体験学習の充実を図る</li> <li>■現場実習を通して職業感を育成し、進路意識の高揚を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■卒業生や地域の方々の協力により、現場実習、先進地農業研修等の体験学習の充実を図り職業観を育成することができた。生徒たちは農業や農業関連産業への進学や就職を意識し、実際に進路決定した者が増加した。</li> </ul>
		キャリア教育の充実に向けた職員の指導力向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■校内研修や農家・企業等の訪問を通じて進路指導力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■進路情報及び企業訪問等による企業情報の共有化を学年会や研修の中で行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■就職支援担当による企業訪問の複講を学年会で実施し企業情報の共有化ができ、新規企業開拓も図れた。しかし来年度、就職支援員の配置が未定であり、配置がない場合の対応を検討する必要がある。</li> </ul>
	早期の進路目標設定とその達成に向けた進路指導に取り組む。	生徒の進路意識を高めるための実態に即した取り組みを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■講演会、進路講話等の進路学習を通して、進路目標設定への意識付けを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■進路講話を実施するとともに、校外での進路相談会へも積極的に参加させる。</li> <li>■学年毎に定期的に進路希望調査及び個人面談等を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■企業による情報交換会に生徒も参加。県内への就職率は依然として高水準である。</li> <li>■3年生は2年次から個別面談等を実施したが、受験先決定後の動きの遅い生徒が多く見受けられ、面接指導等の強化が必要である。1・2年次の進路意識向上の取り組みが薄く、説明会への参加も少ないので、指導方法の改善が必要である。</li> </ul>

		生徒や保護者の思いを十分に受け止めた進路指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間を見通した進路指導を実施し、生徒の進路希望100%達成を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校HPを活用し保護者・生徒に対して進路に関する情報提供を行う。</li> <li>面接指導のやり方を工夫し、3年時に全職員による模擬面接試験を実施し、より実践的な内容の指導を行う。保護者による進路先訪問を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員による3年次の面接指導をすることで、生徒は自信を持って試験に臨むことができていた。</li> <li>3学期に育友会保護者役員による進路先訪問研修が実施され、運営委員会時に報告して各学年委員の啓発を図った。</li> <li>自己開拓や進路未定者について、卒業後も指導を継続していく。</li> </ul>
生徒指導	豊かな心を育む指導の実践に取り組む。	生徒会・農業クラブを中心とした自主的活動による活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会・農業クラブを中心とした生徒の自主活動や部活動、ボランティア・委員会活動の促進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒企画による各種行事や委員会活動を通じた自治活動力の育成を図る。</li> <li>ボランティア活動の推進や部活動活性化として加入率向上を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業クラブ県大会開催や昇降口等での挨拶運動・生徒総会・体育大会・菊農フェスタなど、生徒主体となって活発な活動ができた。</li> <li>生徒会や部活動が中心となり地域清掃、マラソン大会補助員、キャンプ指導等のボランティア活動に多くの生徒が参加した。部活動加入率は年度当初はやや少なかったが最近増加傾向にある。</li> </ul>
		農業教育における動植物の育成管理を通じた豊かな心の醸成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>同僚との協力及び動植物の飼養管理を通して責任感を育成するとともに他者や周囲に配慮することのできる心の醸成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同僚と協力して作業をすることで責任と周囲への思いやりの心を育てる。</li> <li>動植物との触れ合いを通して、命を大切にす豊かな心と互いに協力・尊重する心を育成する</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>動植物を教材として学習することで、命を大切にす豊かな心と互いに協力する心を育成することができた。</li> <li>動植物の飼養・栽培管理実習を協力して行うことで責任感や同調性を育成することができた。今後も生徒に様々な実習体験を積ませることで、周囲への思いやりを持った生徒を育てていく。</li> </ul>
	規範意識を育てると共に安全教育の徹底に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的生活習慣の確立と規則やマナーを遵守する意識を高める。</li> <li>交通事故や犯罪等に遭わないために防犯意識の高揚を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ち良い挨拶、制服の着こなし、時間を守る等、社会人となるための基礎基本を徹底指導する。</li> <li>交通ルール遵守や自転車盗難等の防犯をはじめとする安全教育指導を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の登校指導や定期的な整容検査の実施により整容指導の徹底を図る。</li> <li>整容面（服装・頭髪）について全体に周知し全職員で統一した指導を図る。</li> <li>防犯対策として定期的に二重ロック点検、施錠指導や交通安全教育を実施する。</li> <li>交通安全教育として外部講師による交通講話を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年9回実施から今年は7回実施とし、検査間隔や指導時期を精選したことで指導の徹底ができた。</li> <li>入学時配付の生徒心得を2・3年生にも再度配布し内容を周知したことで生徒指導全般の充実を図ることができた。日常生活における生徒指導を全職員で実施できたことで整容指導の徹底につながった。</li> <li>地域からの指摘もあったが、あいさつ指導の徹底が必要である。</li> <li>毎月の一斉登校指導時に交通委員会で二重ロック点検を実施し無施錠・ワンロックは減少傾向である。</li> <li>交通委員会で学校周辺の危険箇所マップ作成し生徒へ周知することができた。</li> <li>外部講師を招き3月に1・2年の生徒保護者を対象に交通講話を実施。</li> </ul>
人権教育の推進	豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成に取り組む。	相手の立場や心情を理解することのできる生徒の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権感覚を高めて、心豊かな生徒の育成に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年7回のLHRをはじめ様々な授業を通して人権感覚を育む</li> <li>人権講話や人権講演、平和登校日など、機会を捉えて人権の大切さを伝える。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権LHRを年間計画通り各学年7回実施し、生徒の人権意識を高めることが出来た。</li> <li>平和登校日での講演を通し、平和教育に関する意識の向上が感想文から見て取れた。人権教育主任による全生徒対象の講話を実施。</li> </ul>

		指導する職員の人権感覚を豊かにする研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■毎学期に配慮を要する生徒等に関する研修を実施することで生徒に対する人権感覚を磨く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人権教育推進委員会を毎週行い、共通認識と共通実践を図る</li> <li>■年間3回の生徒理解研修を実施し、全職員で課題を抱える生徒の状況を把握し、共通理解を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人権教育推進委員会を定期的実施したことで、人権教育や生徒情報に関する職員間の共通認識を図ることが出来た。また、生徒理解研修を実施し、全職員で配慮を要する生徒の状況把握をすることで、生徒指導の一助とすることが出来た。</li> <li>■配慮を必要とする生徒の増加に伴う中、職員の指導力と人権意識の高揚を一層高める必要がある。</li> </ul>
	命を大切にす 心の育成に取組む。	動植物に関わることで命の大切さを意識し、いじめのない学校づくりに取り組む生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日常の学びの中で命の大切さを知り、自分や他者の命を大切にすることができる生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■命を育て、命を頂くことで生かされていることを実習等の授業で学ぶ。</li> <li>■人権委員会を中心に「いじめ撲滅宣言」の読み上げ、クラス掲示を行い、感謝の心と他者を認める心を意識させる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■授業や農業実習を通し、命の存在を感じ、命を育むことや、一人ひとりの個性を尊重することの大切さを学ぶことが出来た。</li> <li>■全校集会で人権委員長が「いじめ撲滅宣言」を読み上げるとともに、各クラスに掲示することで、お互いを認める心を意識することが出来た。</li> <li>■SNSによる「いじめ」とらえられる事象がまだあるので、更なる指導が必要である。</li> </ul>
いじめの防止等	命を大切にし、いじめをなくす行動をする生徒の育成に取り組む。	命の大切さを理解し、命を大切にすることのできる生徒の育成に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日常の学びの中で命の大切さを知り、自分や他者の命を大切にすることのできる生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■性教育LHRをはじめ、日常の授業・実習で、命を育て、命を頂くことで生かされていることを学ぶ。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学年毎に性教育講話を実施。1年（性感染症など）、2年（性関係DV事例など）、3年（妊娠・出産、望まない妊娠など）と段階的内容の講話を実施し、指導の充実を図った。授業や実習などで、年間を通して命を育む指導を行った。</li> </ul>
		いじめ防止に積極的に取り組むことのできる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■相手の立場を考え、命を大切に考えることができる生徒の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■LHR等で人権問題を取り上げて、いじめや差別をなくす生徒の育成と正しい言葉遣いの指導をする。</li> <li>■全学年で一斉教育面談を実施し日頃の悩みを把握するとともに、いじめの未然防止、早期発見を語る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■1学期に3学年全生徒、2学期に1、2学年全生徒の一斉教育面談を実施して、一人ひとりの思いや悩みを聞くことが出来、担任を中心に事後の対応をとることが出来た。</li> <li>■「心のアンケート」結果を踏まえ、本校独自の一斉教育面談を全職員で実施した。複数回のアンケート実施により、早い状況把握と対応ができた。</li> </ul>
専門教育	地域と連携した農業教育の推進に取り組む。	地域と連携した農業教育の推進に取り組み、農業経営者を育成する。	就農教育の推進と地域に開かれた農場を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■農場を地域に開かれた学校の拠点とし、農業の新しい技術や情報を校外に積極的に発信していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■小学生の農業体験学習やJAとの連携事業等の実施により、地域にある程度情報発信をすることができた。</li> <li>■GAPの授業への導入、認証制度取得や農産物の加工・販売方法などの情報収集を行い、地域へ発信する取組を強化する。</li> </ul>
		農業教育により自信と誇りを持たせ関連産業従事者を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■農場を生徒の学習発表の場と位置づけ、農業教育に対する自信と誇りを育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学習成果を積極的に発表し、身につけた専門性を将来活かす進路指導を実践していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学科ごとのプロジェクト発表会を実施し、学習成果を発表することで自信につなげることができた。即就農、関連産業への就職、農学部への進学など農業教育をとおした進路指導ができた。</li> </ul>
環境教育	環境保全活動や環境問題に積極的に取り組む。	学校版環境ISOに取り組むとともに農業を通して環境整備に意欲的に取り組む態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■環境にやさしい農業を実践し、環境保全や環境問題への関心を高め、意識的に取り組む態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学校版ISOの認定校として校内外のクリーン活動を実施する。</li> <li>■地域を含めた花いっぱい運動を展開する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ISOの宣言項目を教室や職員室へ掲示。どの程度実践されたかの確認が不十分である。今後も継続した意識付けの取組を行っていく。</li> <li>■花いっぱい運動は、農業クラブを中心に全学科で取り組み、近隣中学校との共同作業も実施できた。</li> </ul>

		美しい学校づくりをテーマに環境美化活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境美化活動を通して美しい環境の中で豊かな感性を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化コンクールの実施。美化委員を中心に学校周辺の美化活動を年5～6回行う。</li> <li>ゴミの分別運動を実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期毎に校内外のクリーン活動、美化コンクール等を実施したことで、教室や校内の環境美化を図った。意識の向上によりゴミの分別・収集がなされていた。各クラスの美化委員の生徒を中心に更なる環境美化への取組を行う。</li> </ul>
保護者との連携	育友会との積極的な連携・協力に取り組む。	円滑な学校運営のために情報提供に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者へ学校行事や生徒の様子等の情報提供に努め、本校への理解と協力を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年4回の育友会会報作成等に協力し、菊農のPRに努める。</li> <li>HPや安全安心メールを活用して育友会活動を紹介し学校行事の周知徹底に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年4回育友会会報を発行し、生徒の頑張りや育友会活動を紹介し、菊農のPRに努めた。</li> <li>HPで育友会のボランティア活動や各種研究大会、ロードレース大会の豚汁づくりなど育友会活動を紹介し菊農のPRに努めた。</li> </ul>
		PTA活動のさらなる活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA総会や学校行事への保護者の出席率向上を図る。</li> <li>ミニバレーや各種研修会など運営を工夫し、楽しい育友会活動を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早目の情報提供と、欠席者については、生徒を通じて資料を配布し、情報の共有化を図る。</li> <li>保護者が参加しやすいように開催曜日や時間帯を工夫し、多くの意見を取り入れて活発化を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニバレーや環境美化作業など天候に配慮した日程の設定など、できるだけ参加しやすいように配慮した。</li> <li>育成支援委員会の寄せ植え講習会や会員全員を対象にしたチーズ作り講習会、さらに進路指導に理解を深めるための企業訪問研修など新しいことにもチャレンジして活動の活発化を図った。</li> <li>総会や保護者会の出席率がまだ低いので、情報提供などの工夫を行い、向上を図る</li> </ul>
地域との連携	学校運営協議会を通し地域と連携協力体制の確立	自主的に学び、考え、行動できる生徒の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活動を通してボランティア活動に参加するとともに地域住民とのコミュニケーションを深める。</li> <li>防災教育の3原則である知識・技術・心を軸とし防災意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の美化作業等に積極的に参加する。</li> <li>学校行事をHP、広報誌等で情報発信し、地域住民来校の機会を設定する。</li> <li>教科、集会等で各災害の発生メカニズム等の理解を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の防災訓練や行事に参加することができた。</li> <li>菊池市や地元施設等のボランティアの呼びかけに積極的に参加する生徒が増えてきた。</li> <li>地震発生メカニズムについて、全校集会時に理科担当教諭の講話を実施し、理解を深めることができた。</li> <li>地元区長との協議を行う機会が増え、生徒の地域行事への参加が増えた。</li> </ul>
		災害時の連携体制や防災システムの構築に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災型コミュニティスクールを構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災マニュアルの共有、合同防災訓練の計画、実施。</li> <li>地域を含めた防災訓練を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災型コミュニティスクールの初年度であったが、地域、行政機関からの意見・アドバイスをいただき、防災教育に対する連携を強化することができた。</li> <li>防災マニュアルの見直し検討、修正を行ったが、防災マニュアルの職員への周知が不足。</li> <li>地域合同での防災避難訓練の実施ができた。訓練実施後の反省を踏まえ、次年度の課題として改善していく必要がある。</li> </ul>

#### 4 学校関係者評価

- 生活の規律は、保護者の子供への関わりが重要である。育友会で保護者向けの講演会等の実施を検討してもらいたい。中学校でも基本的な生活習慣の定着指導を行っているが、高校でも引き続きお願いしたい。
- 中学生は、高校の学習環境や明るい挨拶など高校生の雰囲気をよく見ている。学習活動、学校行事等、生徒全体の意欲を引き出すために、工夫を凝らした取組を期待する。
- 中学校で高校生と一緒に花苗植え付けをさせてもらった。中学生はこのような取組を敏感に捉えているので、回数を増やし生徒同士がコミュニケーションをとる機会を増やしてもらいたい。
- 特色ある寮教育が生徒を成長させる上で、効果が大きいということをいかにPRするかを検討する必要がある。
- 定員が満たされていない状況だが、菊池農業高校にしかできない魅力、農業高校だから学べること、部活動の活躍や卒業後の進路情報を提供することで、さらに生徒募集等につなげてもらいたい。また、専門性を生かした進路指導を進めていく上で、教職員の専門教科指導力向上が必要である。
- インパクトのあるHPの工夫、キャッチフレーズは学校の大きなイメージとなる。

#### 5 総合評価

- 学校評価アンケートの保護者回答率は昨年度と同程度であった。3ヵ年同項目で実施し、わずかずつではあるが生徒と保護者ともに評価が向上したことは本校の取組みについて、多くの方に御支援と御理解をしていただいた結果であり、各方面からの協力や支援体制ができていると判断する。  
特に生徒たちの体育大会での企画や運営、菊農フェスタでの生き生きとした明るく積極的な姿から、日頃の活動を生徒・保護者にPRでき十分理解していただいた結果だと考える。また今年度オープンスクールを2回実施し、本校の教育活動を地域の方々に見ていただいた。参加人数を増加させる手立ての検討が必要である。
- 教育相談部を中心に、全生徒対象の一斉教育面談の定着を図り、得られた情報の集約と全職員での共有化による生徒理解に努め、支援が必要な生徒をスクールカウンセラーや巡回指導員、外部専門機関と連携しながら、校内支援体制の確立に努めたことで、本校に入学して良かったと楽しく学校へ通う生徒が増加につながった。
- 生徒の学力向上と進路保障の面からも、全職員共通理解のもと指導に取り組んでいきたい。学習指導面では、まだまだ十分な学力向上に至っていないので「UD化」を意識し、生徒自ら授業の見通しができ、自分の考えや意見が言え、主体的に学べるような授業展開を実践することで進路実現につなげていきたい。
- 進路状況については、農業経営者を目指し進学後就農予定13名、即就農7名（雇用就農含む）となった。進学は、県立農業大学校へ8名進学、国立大学農学部への進学者1名、4年制私立大学10名をはじめ40%が上級学校へ進学することとなった。就職では、基本的な生活習慣の確立を含め、進路指導部を中心にキャリアセンターの新規企業開拓、進路相談、面接指導等で適切な指導を進め、学校紹介での内定率100%となり、離職率減少のための内定者セミナーも実施した。また、海外に視野を向け英国の大学進学、調理を学ぶためフランスへの留学予定の生徒もでてきた。

#### 6 次年度への課題・改善方策

- 学力向上は、授業評価アンケート結果から、日頃の授業の工夫と積み重ねが重要である。支援が必要な生徒など多様な生徒が入学する中、授業のUD化を踏まえた「わかる授業」「もっと学びたくなる授業」の展開を更に心がけ確かな学力の定着を実施したい。考査前学習会等で「学びなおし」の指導も含め、「わかったという達成感」と「学ぶ楽しさ」を育成し、『生徒が主体的に学ぶ』授業の展開を全ての教科で実践し、社会を生き抜く力を育てる教育の実践に取り組んでいく。そのために、授業研究に取り組み、教師の指導力向上に努めるとともに、オープンスクールや公開授業の充実を図る。
- 生徒理解研修や一斉教育面談等を通して生徒の実態を把握し、早期対応、早期解決に全職員で取組む。農業のもつ教育力を活かした「生徒が安心して学校生活を送れる体制づくり」を実践する。生徒一人ひとりに向き合い、生徒に「命」を大切にすることを育て、いじめのない楽しい学校生活を送れるよう支援する。
- 防災教育では、今年度学校運営協議会（防災型コミュニティスクール）を5回開催し、地域と合同の防災避難訓練の実施、防災マニュアルの見直しなど新たな防災教育に取り組むことができた。今後も発生が予想される様々な災害から生徒の命を守るため、危機管理マニュアルを随時検証し、地域と連携した学校防災を推進する体制整備を行う。
- 人権教育では、相手の立場や心情を理解できる生徒の育成を目指し、人権LHR・講演会を再検討する。全職員が生徒一人ひとりの状況を共通理解して、法的なことも含めた研修の充実を図る。
- 本校の特色ある学習内容、行事・部活動等を通して生徒の生き生きとした学校生活の様子を、適時にホームページで発信する。更に地域広報誌、クラスだより等を活用して広くPRし保護者や地域の理解を得るとともに、一人ひとりの生徒が輝ける活動の場を広げ学校の活性化を図ることで生徒募集に繋げる。
- 生徒の進路実現のために、農業先端技術の習得や日頃の学習指導、個別指導等を充実させ農業経営者の育成や国立大学・農業系大学等への進学者の増加等に取り組む。